

### 11月16日(日)三寶寺報恩講

おかげさまをもちまして、本年も無事に三寶寺報恩講を開催することができました。紙面を借りて御礼申し上げます。

#### 法話を聞かれた方々の感想

一、主人は埼玉の三寶寺の住職の法話を聞かせていただき、自力で八ピリのやり方をやっていく気になりました。苦に立ちむかう勇気をいただきました。ありがとございました。(三枝様)

一、縁の中にいろいろな人との出会いがあるんですね。人に備わる仏縁がさらに人を導くんですね。(稲吉様)

一、郷里北海道の特産物の煮物、つけものを作って重箱に詰めてまいりました。皆様に食べていただきたく思います。ありがとございます。(富野様)

一、夫婦でそろって参加しました。こういう場に行けるかぎり出席したく思います。(生田様)

#### 式次第

- 一、司会、開式の辞
- 一、喚鐘
- 一、三歸依文
- 一、表白
- 一、正信偈

真四句目下  
念佛講  
弥陀大悲の誓願を  
次第

- 六首
- 赤節譜五陶
- 回向
- 願以譜五陶

- 一、御俗姓
- 一、法話

ぜひまた  
ご参加下さい



#### 報恩講法話

埼玉三寶寺住職 目崎邦昭(釋真照)

報恩講は、親鸞聖人の教えに会うことです。教えの中で、真宗は寿が三回もらえることです。親鸞聖人の正信偈念仏は、顕浄土真実行文類二の中に書かれていて(真宗聖典P203、P208)。

最初の一行目『歸命無量寿如来』と寿なる大切な心が表示されている。寿なる心は一生涯で三回使用される。一回目は、人として誕生、二回目は結婚式、三回目は、寿算として棺書として授記される。寿なる願いは、すべてのひとを、ものごとをしあわせにせずにはおかない。大無量寿経正覚を取らじの本願をあらわす。

その本願で、人生は苦に立ちむかい、苦悩を滅することの不可思議を私の身にいただいたのです。四年前の正月、私は意識がうすれていきました。脳への手術によって一命をとりとめました。しかし言葉はなかなかでてきませんでした。病院に入院をしている時、私と同じ病気の方がおりました。何年もたつても歩く足もおよびつかず、言葉もよく発音できないのでした。私は挑戦してみる決意をしました。ベッドの上で、足首を左右ねかせ、たたせ、膝から下をかわりばんこに曲げクワッと伸ばし、折たたむ、さらに五本の指をア

今号の「しんらんさまカルタ」は休載します。

イウエオ順に位置付け、「ア、ウ、オ」「イエアウオ」と目で確認をしてゆっくりに発音を繰り返して、コップに水を入れてストローを差し込んで、吸う息の五倍以上かけて八キ、止めるというリハビリを自分で繰り返していたのでした。一日も早くご門徒さんが応援してくださいるので応えたいと思いました。その時長男はまだ学生で住職の資格も取得していなかったのです。私がいなければお寺はどうなるか。すべて苦に立ち向かえるうながしをいただいたのです。長男は「俺が跡を継ぐよ」と三寶寺を初めて継ぐと言ってくれました。今思うと、長男は理数が得意なので、学校の先生になつていたのかも……。六ヶ月近くの退院の時、普通に歩け、お経が称名できる声が出てくるということに、お医者さんも驚いていました。何年たつてもしゃべることに苦労しており方が今もおりますが、私は本日埼玉から三時間かけて車を運転して伊勢原に法話を語り参りました。聞いてくださる方がおられるならば、どこでも参ります。私の所は、大般涅槃経からいただいた三寶寺(仏・法・僧)ですが、弟は聖徳太子の十七条の憲法、三寶寺和の精神をもっておりますので、ご門徒さんの皆様どうぞ三寶寺を御支援くださいませ。また皆様とお会いできることを楽しみにしております。御法体をご自愛ください。

合掌